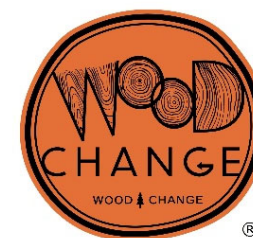


ウッド・チェンジ協議会

～ウッド・チェンジへの取組～

令和5年10月2日

林野庁



参加団体等・研究機関・企業における取組等について（目次）

【団体等】

公益社団法人経済同友会	2
一般社団法人日本経済団体連合会	3
日本商工会議所	4
一般社団法人住宅生産団体連合会	5
全国建設労働組合総連合	6
一般社団法人日本建設業連合会	7
公益社団法人日本建築士会連合会	8
一般社団法人日本ビルディング協会連合会	9
一般社団法人不動産協会	10
一般社団法人全国木材組合連合会	11
一般社団法人中大規模木造プレカット技術協会	12
一般社団法人日本林業経営者協会	13
全国知事会	14
全国市長会	15
全国町村会	16
みなと森と水ネットワーク会議	17
ウッドソリューション・ネットワーク（農林中央金庫）	18
公益社団法人国際観光施設協会	19
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	20
公益財団法人日本住宅・木材技術センター	21

【企業】

東京海上日動火災保険株式会社	22
日本マクドナルド株式会社	23
株式会社セブン-イレブン・ジャパン	24
ヒューリック株式会社	25
SMB建材株式会社	26
株式会社大林組	27
株式会社シェルター	28
株式会社J M	29
住友林業株式会社	30
株式会社竹中工務店	31
東急建設株式会社	32
ナイス株式会社	33
前田建設工業株式会社	34
三井ホーム株式会社	35
三井不動産株式会社	36
ライフデザイン・カバヤ株式会社	37
株式会社久慈設計	38
株式会社日建設計	39
中国木材株式会社	40
銘建工業株式会社	41

【研究機関】

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 ..	42
-------------------------------	----



ウッド・チェンジ・アクション

■ 木材利用推進全国会議としての活動を展開

- 2019年11月の発足以降、木材に関わるあらゆる事業者が一堂に会して勉強や情報交換を重ね、木材を利用しやすい環境の整備、木材利用が環境や社会に与える価値の共有などに取り組んでいる。
- 活動の一環として、セミナーを1回（2023年2月）、見学会を2回（2022年10月・岡山県、2023年4月・関東圏）をそれぞれ開催。
- 2022年11月に開催した総会において、できることから木材利用の普及・拡大につながる挑戦をし、成果を報告・共有することを目的とした、参加企業・自治体の「自主宣言」を共有し、好事例の横展開を実施。2022年度も策定を参加団体へ呼び掛けることを決定し、45団体から回答を得た。
- 2023年3月、森林を活かす都市の木造化推進議員連盟令和5年総会（第2回）に有田礼二 2022年度地域共創委員会 副委員長が出席し、本会の木材利用の取り組みを紹介した。

今後のチャレンジ

- 政府・林野庁による諸施策について説明を伺い、会員・会員所属企業への周知・協力要請を進める。

課題・連携協力の可能性

- 連携協力の可能性
先進的事例や木材利用推進にかかるイベントの周知等

関連情報

- 広報誌「経済同友」掲載記事「2022年度木材利用推進全国会議総会を開催 活動経過、『自主宣言』への取り組みについて報告」
https://www.doyukai.or.jp/publish/uploads/docs/2022_12-1_P24-25_DR_mokuzai_riyou.pdf
- 広報誌「経済同友」掲載記事「同友会は行動する“DO”友会！10/5～6木材利用推進全国会議 岡山県の各所で展開される取り組みを視察しました」
https://www.doyukai.or.jp/publish/uploads/docs/2022_12-1_P36_h4.pdf
- 広報誌「経済同友」掲載記事「木材利用への取り組み、自民党議員連盟に事例紹介」
https://www.doyukai.or.jp/publish/uploads/docs/2023_4_P17_column_1_2.pdf



ウッド・チェンジ・アクション

- 建築物への木材利用の促進に向けて、政府施策にかかる意見交換や視察を実施
- **2021年7月会合**
 - ✓ 内閣官房、林野庁、国土交通省より、CLT（直交集成板）の利用拡大に向けた施策等を聞いた
- **2022年2月会合**
 - ✓ 内閣官房、林野庁、国土交通省より、建築物への木材利用促進を含む、審議会での議論内容を聞いた
- **2022年12月会合**
 - ✓ 国土交通省より、カーボンニュートラルの実現に向けた住宅・建築物分野における政府の取組のひとつとして、建築物に木材を利用する際の構造・防火に関する規定の合理化の取組状況等について聞いた
- **2023年3月視察**
 - ✓ 岡山県真庭市にて、木材産業の振興や建築物への木材利用促進にかかる取組について意見交換するとともに、CLT工場や木質バイオマス発電所を視察

今後のチャレンジ

- 都市・住宅分野のカーボンニュートラルに向けて活動を推進

課題・連携協力の可能性

- 関連する政府施策の周知等の協力

関連情報

週刊経団連タイムス「都市・住宅分野のカーボンニュートラルに向けて」（2023年1月19日号）
https://www.keidanren.or.jp/journal/times/2023/0119_05.html



ウッド・チェンジ・アクション

- 商工会議所は、地域総合経済団体として、**地域経済の活性化に向けた事業活動**を展開。木材利用促進に向けた取組みも、**自治体等とも連携しながら、地産木材の活用支援等**を実施。
- 日本商工会議所では、各地商工会議所を通じて、**ウッド・チェンジ協議会の活動内容や各種施策等を周知**。

<糸魚川商工会議所の取組事例>

- 同所は、2020年度より、**3 M(Midori Mirai Meeting Itoigawa/緑でつなぐ未来創造会議)**を発足し、森林活用に向けた活動を実施。糸魚川市や、森林資源に関わる企業や団体など22組織が参画。
- 糸魚川杉を使用した住宅「**糸魚川モデル**」の企画や、**独自の住宅認定制度「ISSH（イッシュ）」の創設**など、地産木材を活用した経済循環を図っている。
- 糸魚川認定住宅/ISSHに係る普及活動の一例
本年7月 認定住宅見学会の実施⇒**延べ100名弱が来場**
- 2023年度これまでの成果
ISSH取り扱い事業者企業 11社
認定住宅 1 棟/取り組み中の住宅 2 棟



糸魚川認定住宅／ISSH見学会

今後のチャレンジ

引き続き、各地商工会議所を通じて、会員企業等に対し、ウッド・チェンジ協議会で得られる情報や政府の各種施策等の周知を図る。

また、各地商工会議所等の木材活用に資する取組みの好事例を収集し、横展開を図る。

課題・連携協力の可能性

事業者等が木材利用のメリットや意義を感じられるための効果的な広報に加え、自治体や地元経済団体等との連携強化が課題。

関連情報

緑でつなぐ未来創造会議/ 3 M（糸魚川産業創造プラットフォーム）：<https://www.3m.itoigawa-platform.jp/>
ISSH 糸魚川住宅認定基準 特別ページ：<https://3m.itoigawa-platform.jp/iss/>



ウッド・チェンジ・アクション

国土交通大臣に対し「地域型住宅グリーン化事業の継続・拡充（補助）」を要望（8/21令和6年度施策要望）

建設資材の高騰によるリスクを抱える中、地域における中小住宅生産者と関連事業者等の連携による木造住宅の生産体制を強化し、ZEH等（木質バイオマス等を活用したLCCM住宅を含む。）の省エネ性能や耐久性等に優れた良質な住宅の整備を引き続き促進するため、本事業を継続するとともに、補助単価の引き上げ、省エネ計算外注費用の補助対象化を要望した。

◆本補助事業（70万円＋α）を受ける為の主な要件（令和5年度の場合）

- ・地域木材を利用した木造住宅である
- ・認定長期優良住宅、ZEHなど、ワンランク上の性能が必要
- ・住宅会社は国の採択を受けた事業者グループのメンバーである地域中小住宅生産者

今後のチャレンジ

- 木造・木質化の推進とウッドショックの再発抑止、及び花粉症対策における「発生源対策」の観点から、林野庁及び国土交通省が連携して行う国産木材の安定的な需給体制の確立に住宅事業者の立場から協力。
- 強度面等の理由で国産材の利用割合の低い横架材等について、要求性能を満たす製品の製造技術の普及や商品開発に対する支援。
- 2050年カーボンニュートラル達成に向け、新築住宅のみならず、既存住宅の断熱改修の促進のための部分断熱や部分ZEH化を推進。

課題・連携協力の可能性

- 国産木材の安定的な供給体制の実現に呼応した国産材需要の掘り起こし。
- JAS材の安定供給に向けた製造・加工流通施設の整備、及び規格の合理化。

関連情報

一般社団法人 住宅生産団体連合会 ホームページ : <http://www.judanren.or.jp/>



全国建設労働組合総連合（組合員62万人・うち大工12万人・53加盟組合）

ウッド・チェンジ・アクション

住宅・建築物における木材利用促進・大工技能者の育成等により“2050年カーボンニュートラル”の実現に貢献

1. 木造住宅の施工に携わる大工技能者の育成等
 - ・学校教育現場におけるキャリア教育の推進
 - ・認定職業訓練校の運営による若年技能者の育成
 - ・全国青年技能競技大会の開催
 - ・登録建築大工基幹技能者講習の実施
2. 各地域での「木材利用促進協定」の締結推進
3. 地域で開催する「住宅デー」における木工教室等
2022年度 1127会場 9.8万人来場
4. 災害時の木造応急仮設住宅の供給体制整備

地域材を使用した木造
応急仮設住宅（熊本県）



住宅デー会場での
カナナ体験（佐賀県）



今後のチャレンジ

- 大工技能者育成に関する事業の継続
- ウッドショック・カーボンニュートラル等を踏まえた国産材への転換支援、大工・地域工務店の国産材使用率等の実態把握
- 地域工務店の非住宅木造建築の受注支援
- 各地域での木材利用促進協定の締結推進
2023年度、東京都・千葉県と協定を締結

課題・連携協力の可能性

- ウッドショック・国際情勢を踏まえた地域工務店の木材調達のあり方検討、川上・川中・川下による連携の促進
- 木造建築の脱炭素貢献の見える化

関連情報

全国建設労働組合総連合（全建総連）Webサイト <https://www.zenkensoren.org/>



ウッド・チェンジ・アクション

大規模・中高層建築物の木造・木質化を推進

1. 社会的認知度の向上
 - ・木造・木質建築物の事例・関連情報の集約
 - ・LCCO2削減量の算定方法に関する情報の整備
2. 木材利用のメリットの向上
 - ・木材利用のメリット・デメリットの整理・発信
3. RC造、S造との価格競争力の向上
 - ・標準化・規格化による木造・木質化の生産性の向上とコスト削減
4. 防耐火規制の合理化
 - ・木質建築関連法規制及びその運用の情報収集
 - ・関連法令の合理化等に向けた意見の集約、提案
5. 木造関係諸団体との協業

今後のチャレンジ

- 建設業における脱炭素社会実現への貢献
 - ・製造・施工段階におけるCO2排出量低減
 - ・運用時と解体後の再利用によるCO2固定量拡大
- 建設業における非住宅分野への木材利用拡大
 - ・鉄やコンクリートに代わる材料としての木材利用
 - ・森林資源と地域経済の持続可能な好循環の創出
- 建設業における労働力不足と働き方改革への貢献
 - ・軽量・加工容易性による生産性の向上
 - ・工場生産・ユニット化工法による生産性の向上

課題・連携協力の可能性

- ・川上(林業)・川中(木材メーカー)と川下(建設業)との木材利用・調達における課題共有と連携協力
- ・規制緩和・合理化に向けた行政庁との連携協力

関連情報

一般社団法人 日本建設業連合会 ホームページ : <https://www.nikkenren.com/>



公益社団法人日本建築士会連合会

ウッド・チェンジ・アクション

- ◆2015年8月、新国立競技場の屋根構造の木造化をオリパラ担当大臣他関係者に提言。
- ◆第60回建築士会全国大会京都大会（2017年12月）を「山とまちと木造建築」をテーマに開催。
- ◆2020年、連合会に木のまちづくり部会を設置。
- ◆埼玉建築士会、愛知建築士会等において、川上から川下が連携しつつ、中大規模木造建築技術者を養成。
- ◆神奈川県建築士会小田原支部と小田原市が木材利用推進協定締結。また小田原市と建築士会小田原支部の推進で「小田原本造建築推進協議会」が発足。
- ◆プレカット図の標準化とマニュアル作成を目指し、プレカット技術者協会と連携し、検討会を開始。
- ◆2021年度、連合会と木の建築フォーラムとの共催により、東北ブロックを対象に「木の建築賞」を選定。
- ◆2021年11月、国土交通省と連合会が、「木造建築物の設計・施工に係る人材育成等に関する建築物木材利用推進協定」を締結。
- ◆2022年、埼玉建築士会、岡山県建築士会、愛知建築士会が、県との間で建築物木材利用推進協定を締結。
- ◆2023年、高知県建築士会、東京建築士会、和歌山県建築士会、山形県建築士会が、県・都とので建築物木材利用推進協定を締結。

今後のチャレンジ

- ◆建築士会の協力の下でセミナー等を開催し、木造建築物の設計・施工に係る技術者を育成。
 - ◆埼玉建築士会、愛知建築士会の取組みを全国の建築士会に横展開を図り、中大規模木造建築技術者の養成を推進。
 - ◆「木の建築賞」を木の建築フォーラムと共催し、全国7ブロック単位で巡回実施。2023年度は九州ブロックを対象に選定。
 - ◆都道府県と建築士会による建築物木材利用促進協定の締結を推進。
- 【木材利用促進月間等での取組】
- ◆建築士会全国大会しずおか大会
 - ・北陸ブロックにおける木の建築賞作の発表とシンポジウム
 - ・木のまちづくり部会の森林・林業に関するセッション

課題・連携協力の可能性

- ◆地域の木材流通ネットワーク構築のため、都道府県の建築士会と関係団体との一層の連携が重要。

関連情報

建築士会全国大会しずおか大会 <https://shizuokakenchikushikai-zenkokutaiikai.org/home/>

木の建築賞 https://www.forum.or.jp/menu2_10.html



ウッド・チェンジ・アクション

- 令和5年5月、「2050年カーボニュートラル」の実現に向けてオフィスビル業界をリードする立場から、2030年度までの新たな数値目標を盛り込んだ「オフィスビル分野におけるカーボニュートラル行動計画」を策定。
- 当該行動計画における重点実施事項の一つとして「オフィスビルにおける木材利用の推進」を掲げ、建築物における国産材等の木材利用については、CO₂貯蔵による脱炭素化への貢献が期待されていることから、中高層ビルの木造化・木質化をはじめ、オフィスビルにおける木材利用を推進する旨を明記。

今後のチャレンジ

- 会員企業に対する普及啓発等
国のキャンペーンと連携したシンポジウム・講演会等の開催、先駆的な木材活用を導入した優良ビル事例の紹介、見学会の実施など、会員企業に対する普及啓発等を推進。

課題・連携協力の可能性

- 関連施策・活動の情報周知について、林野庁・国交省等の行政機関及び関係団体との連携・協力

関連情報

一般社団法人 日本ビルディング協会連合会

会 員 数 : 1,359 (2023年4月1日現在)
ホームページ : <https://www.jboma.or.jp/>



2021年4月 当協会が策定した「不動産業における脱炭素社会実現に向けた長期ビジョン」で示した主なターゲット

一般社団法人 不動産協会



ウッド・チェンジ・アクション

- 中高層建築物における木材利用を念頭においた、
 - ・「CLTの普及に向けた新たなロードマップ」に関連する各種検討委員会等を通じたデベロッパーの課題認識やニーズ等の情報（事業化に必要な情報）の発信・共有
 - ・同委員会等から得た情報や、関連団体での木材利用の普及に係る施策・検討状況の当協会会員宛て情報提供
 - ・木材利用を検討するデベロッパーが抱える個別課題についての省庁等行政機関との協議
 - ・民間の取組事例に関する省庁や当協会会員宛て説明会等の開催

今後のチャレンジ

- 当協会の会員における取組事例を通じた新たな課題等について、関係省庁等との情報共有
- 個別課題の意見交換や、現地視察等を通じた官民の交流機会の設定
- 同ロードマップに基づく課題解決に対する協力

課題・連携協力の可能性

- 課題
コスト優位性の確保、防耐火・構造等基準の合理化、ESG評価方法の確立、安定供給等
- 連携協力の可能性
関係省庁・関係団体・民間企業との橋渡し

関連情報

一般社団法人 不動産協会

会 員 数 : 157社 (令和5年9月1日現在)
ホームページ : <https://www.fdk.or.jp>



ウッド・チェンジ・アクション

- 1 都市の木造化・木質化に向けたネットワークの構築
・議員連盟、知事会、政令都市議連、経済団体等との連携
- 2 非住宅建築物へのJAS構造材の活用、外構部の木質化等都市の木造化・木質化の促進
- 3 建築設計者に対する木造中高層建築等に関する技術普及活動
(山形、神奈川、新潟、富山、三重、広島、徳島、高知、大分、熊本など)
- 4 クリーンウッド（合法伐採木材）の普及拡大



今後のチャレンジ

- ・都市(まち)の木造化等木材利用の推進
- ・持続性の確保された木材の利用と山元への利益の還元
- ・JAS製品等品質・性能の確かな木材の供給と技術開発・普及
- ・グリーンウッド法施行に向けた合法伐採木材の普及拡大

課題・連携協力の可能性

- ・幅広に関係者による国産材利用についての国民運動の展開
- ・合法性が確認された木材、持続可能性が確保された木材の利用促進

関連情報

森(もり)を活かす都市(まち)の木造化推進協議会 <http://machi-mokuzouka.jp/>

木材利用推進中央協議会 <https://jcatu.jp/home/> もりんく <https://molink.jp/>

JAS構造材の利用拡大 <https://www.jas-kouzouzai.jp/> 外構部の木質化推進 <https://love.kinohei.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

- 1.住宅用プレカット加工機を用いた町役場等の加工
 - ・高精度かつ低コスト化の実現
 - ・プレカットと相性のよい架構を設計者と協働で計画
 - ・地域材を用いた大規模建築を連携で実現



- 2.これまで鉄骨造で建てられてきた建築を木造にチェンジ
 - ・大規模及び中小な商業建築等を木造化
 - ・住宅と同じ架構形式で、工期の合理化を可能に
 - ・建築物の重量の軽減で、環境負荷の高いRC基礎の簡略



今後のチャレンジ

- 一般流通材を用いたトラス標準図の整備
- 一般流通材を用いたトラスマニュアルの整備
- 軸組工法に用いる高倍率のCLT耐力壁の開発
- 高倍率の耐力壁に用いる柱頭柱脚金物の開発
- 実例による国産材を活用した普及セミナーの企画
- トラスマニュアル（キングポスト・平行弦・張弦）
- 講習会の開催
- 見学会の実施（実例・プレカット工場）
- 恒久的な国産材利用を見据えた仕組みづくり
- 【木材利用促進月間等での取組】
- 概算積算システムセミナーの開催
- 平行弦トラスマニュアル講習会の開催

課題・連携協力の可能性

若干増えつつもあるが、全国各地で認知されていない、大きな市場が見込まれる、一般流通材での中大規模木造建築の普及に取り組むことが必要。国産材の生産システムを確立するために日常的に国産材利用をされる仕組みづくりを一緒に考えていく必要がある。

関連情報



技術情報や講習会の予定はこちらから <https://www.precut.jp>

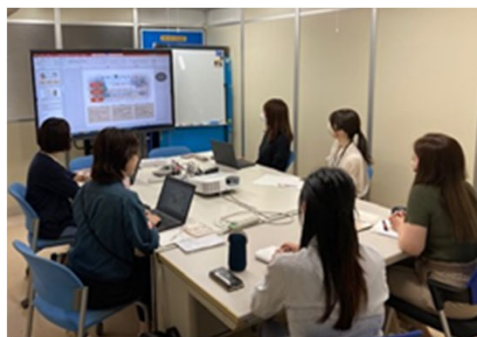


ウッド・チェンジ・アクション

～会員の取組事例～

異業種との交流・協業により、新しい業界への木材利用の拡大・発展に向けた活動を展開。その一環として、株式会社トーカン(食品卸)主催の業界イベント「TOKANPRESENTATION2023」にて、「未来に繋げる木×食」をテーマに新たな木製品利用を共同提案。

・消費者と生産者を繋ぐ『卸』『流通』の役割を担っているという共通点から、両社の若手社員が集まり、それぞれの業界の課題解決に向けた提案策定に取り組んだ



・イベントでの提案「木の組立て式什器」と「乾物の量り売り」を組み合わせ、消費者が商品を身近に感じられる工夫をした



今後のチャレンジ

異業種とコラボすることにより、木材の新たな活用方法を検討し、木材利用分野の拡大及び需要促進につなげていく。

【木材利用促進月間等での取組】

- ・ウッドワンダーランド2023inあいちに出展
(株)アーティストリー(加工・家具製造)とコラボ
- ・SDGs AICHI EXPO2023に出展
(株)サンゲツ・ヤハギ緑化(株)とコラボ

課題・連携協力の可能性

- ・地域材活用の意義や魅力の周知・啓発
- ・異業種・大学との連携で木材を用いた社会問題(カーボンニュートラル・健康経営等)の解決へつなげる

関連情報

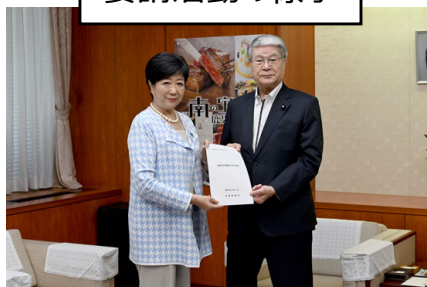
西垣林業株式会社 <https://www.nishigaki-lumber.co.jp/>
株式会社トーカン [会社概要 | 株式会社トーカン \(tokan-g.co.jp\)](https://www.tokan-g.co.jp/)



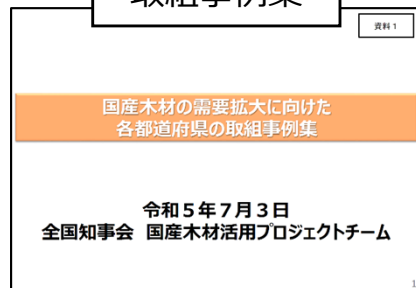
ウッド・チェンジ・アクション

- 国への提言策定・関係省庁への要請活動の実施
 - 「5つの重点事項」を中心に要請
 - ・ 民間非住宅建築物の木造化・木質化の推進
 - ・ 財源の確保
 - ・ 建築士等の育成
 - ・ 国産木材への転換促進
 - ・ 花粉症対策の推進
- 「国産木材需要拡大宣言」に基づく各自治体の取組
 - 国産木材活用推進に係る取組事例集の作成
 - いくつかの取組についてはP T会議の場で発表
⇒優良事例の横展開を積極的に実施

要請活動の様子



取組事例集



今後のチャレンジ

- 引き続き、「国産木材需要拡大宣言」に掲げる取組方針に基づき、各都道府県がそれぞれの地域の実情に応じながら、知恵を絞って個性や強みを活かした施策を実践
 - ・ 公共建築物 ・ 備品や消耗品 ・ 木塀設置
 - ・ 市区町村との連携 ・ 教育活動や広報活動
 - ・ 民間事業者へ働きかけ ・ 建築士等の育成
 - ・ 新たな製品や技術の研究開発
 - ・ 安定供給体制づくり ・ 花粉発生源対策
- 先進・優良事例について、お互いが連携して効果的な共有・発信

(各都道府県の取組)

https://www.nga.gr.jp/committee_pt/item/bead814918991af4b35408597b0b6ac9_4.pdf

課題・連携協力の可能性

- 国産木材活用の意義や魅力の周知・啓発
 - 他団体と連携したイベント開催・P R
- 木材需要者と木材供給者を繋ぐ仕組みの構築
 - 林業DXに繋がる各種システムの構築 等

関連情報

全国知事会 国産木材活用P T H P : https://www.nga.gr.jp/committee_pt/project/kukusan_mokuzai_katsuyou_pt/
 ※ H P 内に「国産木材活用についての基本情報」のコンテンツがあり、木材の魅力等についてP R
 ※ 令和5年度のP T会議においては、当協議会の隅会長にご講演いただいた。



ウッド・チェンジ・アクション

- ◆ 林政問題に関する研究会(委員122市 令和5年8月末時点)
 - ・ 林野行政を取り巻く諸課題等についての情報収集・意見交換を行うとともに、林野行政の今後のあり方等について調査研究を実施。
 - ・ 「森林・林業に関する提言」のとりまとめ。地域材の安定的・効率的な供給体制の構築、国産材の利用拡大の推進、CLTの普及、公共建築物等の木造化・木質化の推進等について提言。
 - ・ 委員122市（岡山県真庭市）の取組事例
- 先進的なCLT建築物である岡山大学「共育共創コモンズ」を題材としてCLTセミナーを開催（CLTの普及促進活動）
- 市内製材等業者と都市部建築家との連携による無垢材活用プロジェクトを展開（真庭の無垢材を使った新製品「BeLIN」を開発）
- 令和6年5月に岡山県で開催の第74回全国植樹祭メイン会場に設置される御座所の背面を県産材を使用した伝統木工技法である真庭組子で製作することが決定



森林を
あたらしい場所へ
連れていこう。
BeLIN

今後のチャレンジ

- ◆ 国産材の利活用の重要性について理解を深めるため、林政問題に関する研究会において、木材利用に係る優良事例や、先進的な都市自治体の取組等について情報共有。
- ◆ 国産材の利用拡大、CLTの普及、公共建築物等の木造化・木質化の推進について、提言のとりまとめ及び関係府省庁への要望活動を引き続き実施。

課題・連携協力の可能性

- ◆ 森林環境譲与税の更なる活用、木材加工流通施設等の整備、公共建築物等の木造化・木質化に係る財政支援、施工者の技術向上に係る支援等が課題

関連情報

林政問題に関する研究会「森林・林業に関する提言」（令和4年11月）

https://www.mayors.or.jp/p_opinion/o_teigen/2022/11/221129rinsei-teigen.php



ウッド・チェンジ・アクション

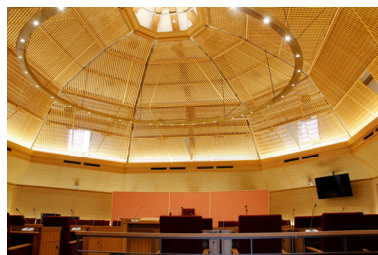
■ 委員町での木材利用

・山口県和木町では、町内にある蜂ヶ峯総合公園に新たなエリア「B e e + (ビープラス)」を整備した。交流棟とレストラン棟については多くの県産材を使用し、温かみのある空間を創出している。



■ 町村での木材利用

・京都府京丹波町では、2021年に木造新庁舎を建設した。使用した木材の96%は町産材。町の豊富な森林資源を活用している。



今後のチャレンジ

- 町村での木材利用を推進する為、活用事例の共有や周知徹底を進める。
- 公共施設(役場庁舎等)の木造化の推進。
- 森林環境譲与税のより一層の活用を図り、都市部との連携等を促進する。

課題・連携協力の可能性

- 町村でのさらなる木材の利活用
- 木材活用に関する情報の周知

関連情報

蜂ヶ峯総合公園 : <https://www.hachigamine-grand-park.com/>

京丹波町 : <https://www.town.kyotamba.kyoto.jp/index.html>

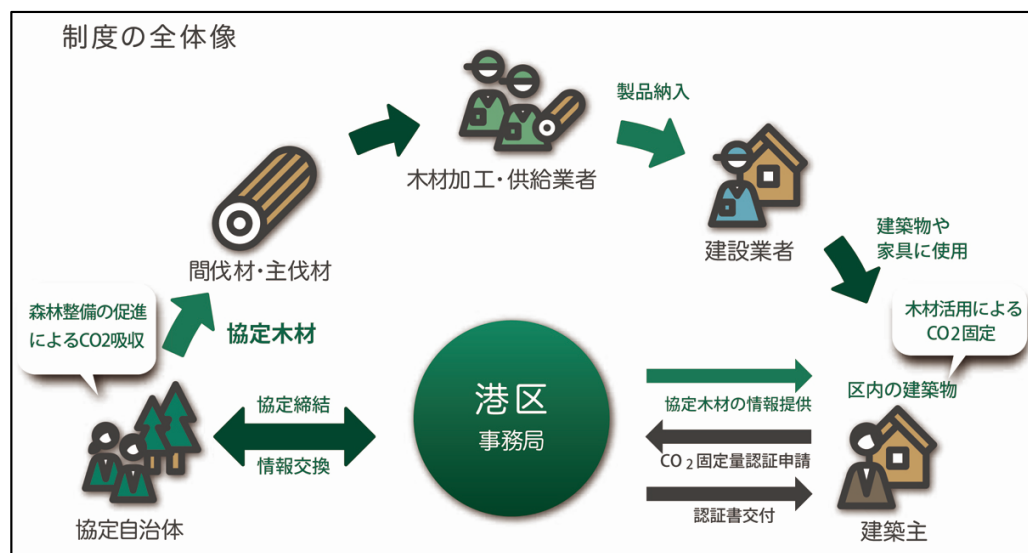


ウッド・チェンジ・アクション

◆2009年10月、二酸化炭素の削減に取り組む都市部の港区と、林業の活性化を図る森林資源が豊富な全国の自治体とが、それぞれの課題解決を図る連携組織「みなと森と水ネットワーク会議」を発足

◆2011年10月 港区内で床面積5,000㎡以上の建築を行う建築主に対し、床面積1㎡当たり0.001㎡以上の協定木材（※1）又は国産木材の使用の協力を要請する「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」を開始

※港区と「間伐材を始めとした国産木材の活用促進に関する協定」を締結した自治体から産出された木材



今後のチャレンジ

◆毎年「みなと森と水ネットワーク会議」の参加自治体の首長と更なる木材活用促進に向けて意見を交わす「みなと森と水サミット」を開催（昨年のサミットでは「中高層建築物の木造化を進めるために」「脱炭素社会の実現に向けた木材利用の更なる普及促進について」を意見交換）

【木材利用月間等での取組】

- ・みなと森と水サミットの開催
- ・サミットのプログラムとして「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰」受賞の表彰式を開催

課題・連携協力の可能性

【課題】協定木材の更なる利用促進

【連携協力】協定自治体数 約80自治体

みなとモデル登録事業者数 約400社（※2）

※2 協定自治体産の木材を製材・加工・取引可能な事業者数

関連情報

ホームページ：<http://www.uni4m.or.jp/>

Youtubeチャンネル：https://www.youtube.com/channel/UCK6Mb9ib_VEaU3kOKwwRgUQ



ウッドソリューション・ネットワーク（事務局：農林中央金庫）

ウッド・チェンジ・アクション

ウッドソリューション・ネットワーク（以下WSN）は、木材利用促進を目的に、会員企業31社で構成する団体（事務局：農林中央金庫）

2016年の設立以来、木材利用拡大に向けて取り組んでいるが、現在の第3クールでは、3つの分科会（SDGs、木材利用の意義、地域経済振興）を設け活動している。

第1クール（2016年10月～2019年9月）

- ・中高層木材建築普及に向けた取組み
- ・オフィス家具の木質化に向けた取組み

第2クール（2019年10月～2022年9月）

- ・森林環境譲与税
- ・ESG、SDGs
- ・海外（国内需給ギャップ→海外戦略）
- ・木のよさ

第3クール（2022年10月～）

- ・SDGs
- ・木材利用の意義
- ・地域経済振興

今後のチャレンジ

＜SDGs分科会＞

木材調達先の生物多様性に対する説明責任を果たす知識を得るため、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）とそのフレームワークを理解する
＜木材利用の意義分科会＞

木材利用に積極的な企業の動向を把握するとともに、若年層を中心とした世間一般へ木材利用の意義を発信する

＜地域経済振興分科会＞

木材サプライチェーンにおける地域経済振興の側面の定性・定量評価を行う

課題・連携協力の可能性

木材利用を促進するうえで、木材利用の効果（環境貢献・経済）をわかりやすい数値で示すことが重要な課題と認識しており、今後取り組んでいきたい。

関連情報

ウッドソリューション・ネットワークホームページ：<https://www.wsn.org>



ウッド・チェンジ・アクション

■ 広範に木造・木質化が進展する中、木質系建築は経年変化、維持管理がその寿命を大きく左右する。使うだけでなく如何に維持するかを今一度見直す時期にある。この趣旨で竣工後数年以上経過した事例の見学会を開催した。

- ・東京木材会館（2008年竣工）2022/11/28開催
- ・フラッツウッズ木場（2020年竣工）2022/12/8 開催

■ 一方で木造化・木質化のバランスも問われている。木材活用のバランス、都市木造の有り方を学ぶため下記の新築作品2例の見学会を企画し開催した。

- ・上智大学15号館（2022年竣工）2023/1/17 開催
- ・ジューテック本社（2022年竣工）2023/2/14 開催

■ 2023年2月東京ビッグサイトにて開催の「国際ホテルレストランショー」にてウッドリターンアイデアコンペ最優秀賞作品を実物大で試作し発表、展示を行った。



今後のチャレンジ

■「森から地域づくりを見直す」シンポジウム開催
2023年9月5日開催@大手町3×3Lab Future
協会創立70周年記念事業のひとつとして「人と自然へのホスピタリティ」をテーマに開催。

公益社団法人国際観光施設協会
創立70周年記念事業

「人と自然へのホスピタリティ」
セミナー

「森から地域づくりを見直す」

参加費 1000円 9.5 (火) 14:00-16:15
オンライン開催 Zoom利用

パネリスト
一般社団法人 森と未来 小野 なぎさ
東京理科大学特別教授 浦井 史郎
ファシリテーター 株式会社モリアゲ 長野 麻子

主催：(公) 国際観光施設協会 協賛：エコツェリア協会

【木材利用促進月間等での取組】

- ・ウッドチェンジ協議会の活動を定期的に会員に周知。
- ・毎年2月開催のホテル展にて協会会員の「木づかい活動」を発表展示する。

課題・連携協力の可能性

- ・会員企業は各々SDG'sの取り組みを行っており、国産木材の活用も推進している。当協会は「木づかい」活動を通して会員と連携し、結びつける事で、新たな価値を創出するプラットフォームとしての機能を持つ。

関連情報

国際観光施設協会ホームページ <http://kankou-fa.jp>

ウッド・チェンジ・アクション

JAPICの目標

“林業の成長産業化” “地域創生”

○森林再生事業化委員会

(委員長：酒井 秀夫 東京大学名誉教授)

・政策提言（6月15日織田林野庁長官へ手交）

①林業の成長産業化推進

②持続的循環型林業の確立と苗木の供給

③スマート林業の社会実装 ④林業の基盤整備と投資

⑤国産材の利用拡大 ⑥木材の価値認識と積極的利用

○林業復活・地域創生を推進する国民会議

(会長：宮下 正裕 (株)竹中工務店特別顧問)

・2024年 第9回国民会議開催予定



織田林野庁長官への提言手交



国民会議・林業WG開催の様子

今後のチャレンジ

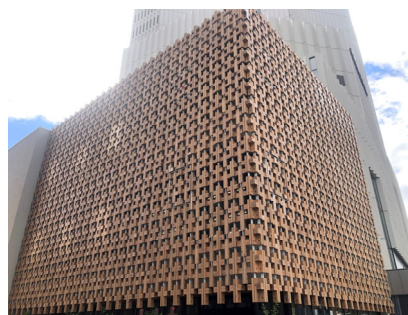
○新たな視点も加えた取組の継続

①持続可能な林業に向けた資金循環

②地域創生

③人材活用

WG視察の様子



(住友林業(株) 上智大学15号館) ((株)竹中工務店 水戸市新市民会館)

課題・連携協力の可能性

産官学交流のプラットフォームとして、引き続き情報共有や政策提言を精力的に実施して参ります。

関連情報

JAPIC森林再生事業化委員会：http://japic.org/project_outline/forest/index.html

林業復活・地域創生を推進する国民会議：http://www.japic.org/project_outline/national_assembly/index.html



ウッド・チェンジ・アクション

当センターは、木材と建築に係る産・官・学界の接点となり、技術の開発普及、品質性能の向上等を推進することを目的として設立された財団法人

政策ニーズ、現場動向等に即した各種公益事業を通じて、木材利用の新たな道を開くウッドチェンジに貢献

- ・C L T等新技術を用いた建築の実証、内外装木質化の効果の見える化の実証等の支援、成果データ等の公開
- ・木造建築用接合金物の開発・標準化、木質材料・住宅供給システム・構造計算プログラム等の認証
- ・建築基準合理化等に対応した新開発製品・構法に対する構造・防耐火試験、性能評価
- ・木造建築物の設計等に関する技術資料の発行、講習、各種情報共有化活動の実施

今後のチャレンジ

- ・中大規模木造建築の普及率向上のため
 - －高耐力金物の開発・標準化、BIM対応の検討
 - －技術解説書や普及資料の発行
 - －「中大規模木造建築ポータルサイト」等の運営
 - －高強度構造試験、長時間防耐火試験の実施
 - －認証制度を通じた新技術の定着促進
- ・都市木造化のフロンティアとなっている4階建分野をターゲットとした木材流通・木造建築業界への適合性に着目した木造建築供給モデルの検討

課題・連携協力の可能性

関係行政機関、研究機関、業界団体等が進めるウッドチェンジ関連諸活動、プロジェクト等への積極的参画・連携に努めてまいりたい。

関連情報

(公財) 日本住宅・木材技術センター
中大規模木造建築ポータルサイト
中大規模木造建築データベース

<https://www.howtec.or.jp/>
<https://mokuzouportal.jp/>
<https://www.daimoku.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

<新・本店ビル計画>

2024年12月着工→2028年度竣工予定

～国産木材を使い木の使用量が世界最大規模となる高さ 100m の「木の本店ビル」へ～

- ◆ 新・本店ビルは、構造部材である柱、床に国産木材をふんだんに使い、木の使用量が世界最大規模となる高さ100mの「木の本店ビル」として生まれ変わります。
- ◆ 大量の木材の需要が、我が国の林業の再生や地方における雇用の創出、ひいては地方創生、地域循環型経済の構築に寄与することを願っています。また、CO2を吸収・貯蔵する機能を持つ木材を大量に使用することにより、脱炭素社会の実現に貢献します。



※国際的なグリーンビルディングの認証プログラムである LEED®のv4 における「LEED® for Building Design and Construction: New Construction」の категорияで最高レベル「Platinum」の予備認証を取得

所在及び地番	東京都千代田区丸の内1丁目6番1
敷地面積	10,147.61 m ²
主要用途	事務所(本店ビル)、駐車場等
構造	S造/木造/SRC造
規模	地下3階、地上20階、塔屋2階
建物高さ	約100m
延床面積	約130,000 m ²

今後のチャレンジ

- ◆ 一般的なビルに比べて建築時の CO2 排出量を3割程度削減することに加え、高効率の設備や地域冷暖房の採用、使用電力に100%再生可能エネルギーを導入するなどの施策により、省エネルギーの推進、脱炭素社会の実現に貢献します。
- ◆ 東京海上グループは、これからもステークホルダーの皆様とともに、災害レジリエンスの向上、健やかで心豊かな生活の支援、気候変動対策の推進、D&I の推進・浸透に繋がる取り組みを通じて、SDGs の達成に貢献してまいります。

課題・連携協力の可能性

地方創生の取り組みと共に、「木の良さ」の発信、木材利用促進を実行していきたい。

関連情報

東京海上日動火災保険株式会社ホームページ : <https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>



日本マクドナルド株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

- 様々な構法を検証した結果、国内の汎用材を活用することで、投資コストと工務店の負担を削減できる木造平屋建て2モデルを策定した（DT-150及びDT-240）。



- 令和5年2月、国と建築物木材利用促進協定を締結。今後建設するマクドナルド店舗において、一店舗当たり3年間で5,550m³以上の地域材（グリーンウッド法に基づく登録木材関連事業者により合法性が確認された木材）を利用する設計を基本とする。
- 2019年のパイロット店舗の竣工以降、2022年までに47店舗を竣工。2023年は20棟以上を竣工予定。
- 木材利用の意義やメリットについて、積極的に情報発信している。

今後のチャレンジ

- 尺寸グリッド在来工法によるドライブスルー店舗の出店の加速に加え、国産集成材の活用とも合わせて、国産材比率の最大化を図る。
- 既にモデル化した二つのタイプに加え、木造中二階建ての採用により地域材の使用量の更なる拡大に努める。
- 地域材を用いて、できるだけ地域の施工業者を連携することで、店舗を建設する地域経済にも貢献したい。

課題・連携協力の可能性

- 自治体の補助金を活用した店舗開発、地域の施工業者との連携を深めていきたい。
- 人工林の若返りによる環境への効果をより具体的に説明する為の情報を把握したい

関連情報

2023年7月21日：日経BP社「木材活用フォーラム2023夏」登壇

2023年8月10日発刊「森とまちをつなぐ 木と建築 No.2」－独自の工法開発にまで踏み込み店舗のウッドチェンジを加速

2023年8月30日：「とやまウッド・チェンジセミナー」登壇予定



ウッド・チェンジ・アクション

■ メーカー様より店舗の木造化をご提案いただき、多面的に比較

	コスト	工期	施工性	輸送性	環境配慮
軽量鉄骨造	◎	○	○	○	△
重量鉄骨造	×	○	○	△	×
木造	○	△	△	△	◎

環境に配慮した木造店舗をお客様に体感していただけるよう、内装や什器のイメージも検討中

【取組効果】

小規模非住宅の建物における木造化のメリットを認識

【課題】

施工性や品質の確保に課題⇒プレファブ化、工期短縮を検討

今後のチャレンジ

■ 木材の循環利用

森林経営への参入検討→店舗への木材利活用、間伐材や店舗から出た廃材・端材を利用してバイオマス発電の燃料とし、発電した電気を店舗へ供給といった、木材の循環利用を検討する

『里山を中心とした循環型店舗』

■ 木造・木質店舗の仕様化

テストトライアルから課題を抽出し、標準化を図る

課題・連携協力の可能性

木材の循環利用の実現に向けて、産学官の皆さんと連携して課題解決を図っていきたい

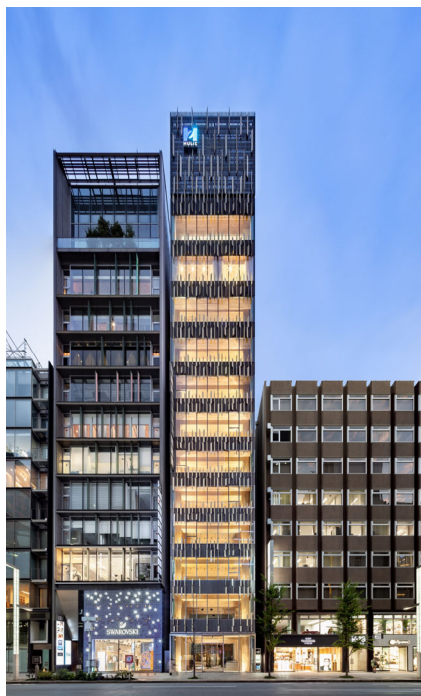
関連情報

株式会社セブン-イレブン・ジャパン ホームページ : <https://www.sej.co.jp/company/>

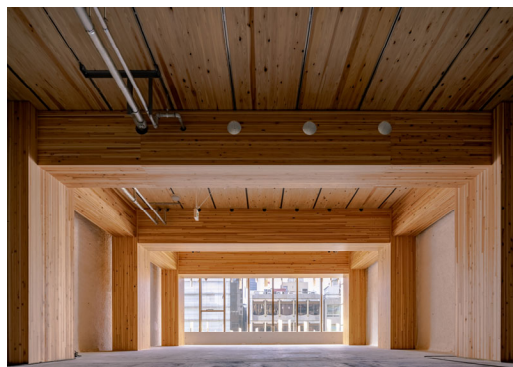


ウッド・チェンジ・アクション

HULIC & New GINZA 8



- 延床面積 2,459m²
- 階数 地上12階/地下1階
- デザイン監修 隈研吾建築都市設計事務所
- 設計・施工 竹中工務店
- 竣工 2021年10月15日



- 国産材使用量 約300m³
- 炭素貯蔵量 約207t-Co2
- 使用した木材のもととなる立木と同量の伐採・植林・下刈りを実施
- 耐火集成材の柱・梁、CLTの天井を、テナントは内装としてそのまま使用

今後のチャレンジ

- ・中高層非住宅建築や低層高齢者施設の木造化、木質化
- ・・・木とRC・Sを適材適所に使用した木造化を推進することで経済的にも合理性の高い建築を設計
- ・国産材の積極的使用

課題・連携協力の可能性

- ・他企業との連携による、ローコストと躯体寸法の最小化を実現する耐火木材の開発

関連情報

ヒューリック株式会社ホームページ <https://www.hulic.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

適材適所で木を活かす

- 「構造」「工法」「部材」等ニーズに対応したGIR接合の提案 -



松野町役場庁舎・防災拠点施設

- 建設地：愛媛県北宇和郡松野町 ■用途：庁舎・防災拠点施設
- 延床面積：2,556.93m² ■階数：地上2階
- 構造：鉄筋コンクリート造+木造※
- ※ サミットHR工法（集成材ラーメン架構）+ サミットCLT工法（CLT耐震壁）
- 木造部材：集成材（スギ 町有林）、CLT（スギ 町有林）



非住宅木造建築の普及活動

- 築10年以上の非住宅木造建築の現場見学会の実施 -

サミットHR工法を採用し建設された、供用開始15年近くの純木造3階建て事務所（延床面積 982m²）と 施工中のこども園舎をセットで現場見学会を実施
 施工中と15年後を比較することができ、また、お施主様や設計者様からの話を聞きながら、施工中や竣工直後では感じ取れない、木造の風合いや、使用感などを感じ、木造化の案件の参考にして頂けたのではと思います。

今後のチャレンジ

- 構造部材をあらわしで使用する木造耐火建築物・準耐火建築物の促進
- 接合部が露出せず高耐力・高剛性を持つ GIR接合の更なる普及と技術・品質の向上
- ニーズに対応する技術の開発と施工品質の更なる向上
- クライアントへの普及活動の継続

課題・連携協力の可能性

- 川上から川下（森林組合・製造工場・加工場 及び設計事務所・元請・クライアント）との連携強化とシステムの構築
- GIR研究会を通じたGIR接合の普及と整備の促進

関連情報

SMB建材(株) 木構造事業本部
<https://summit-hr.com/>



サミットHR 工法 第1号物件（1993年築）から30年 全国各地に1100棟の実績。
 技術と経験を活かし、構造設計から資材調達・施工管理まで一貫したトータルサポートを行っております。
 木質二方向ラーメン「サミットHR工法」、CLTに対応したGIR接合「サミットCLT工法」など ニーズに対応したサンプルで高強度な納まりのGIR接合で 今までもこれからも高品質な中大規模木造建築を提供していきます。



ウッド・チェンジ・アクション

【木造・木質化建築に取り組む意義】

森林資源の循環利用・森林再生に繋げ、
カーボンニュートラルの実現やSDGs達成に貢献



都市木造実現への取組み

①大阪・関西万博
大屋根リング（純木造）

②高層ハイブリッド

③中層ハイブリッド



提供：2025年日本国際博覧会協会

①大屋根リング（施工中）

②高層ハイブリッド（施工中）
（上層階柱梁が木造のハイブリッド）



外観パース（完成時のイメージです。）

③商業ビル（施工中）
（柱が木造、梁がハイブリッド集成材）



今後のチャレンジ

都市木造（純木造・ハイブリッド構造）の実現に
向けたチャレンジ

【設計/施工上の課題】

- ・部材接合部の剛性確保/施工省力化
 - ・耐火仕様（コスト・施工省力化）
- ⇒工法・技術の開発

【木材利用促進月間等での取組

- ・木造関連技術紹介（オンライン）

課題・連携協力の可能性

【大規模木造における構造材調達】

- ・国際情勢の影響も踏まえた構造材の調達対応
- ※需要＞供給 → 納期・調達コストの問題



スナダヤをG会社化。G内連携を構築
施工体制の連携が課題

関連情報

『OBAYASHI WOOD VISION』

<https://www.youtube.com/watch?v=luDMjMwqCDw>

大林組木造建築スペシャルサイト

『Port plus』

<https://www.oyproject.com/>





ウッド・チェンジ・アクション

木造ビル実現による都市の木造化・木質化

「銀座高木ビル」

建設地：東京都中央区銀座

建築主：高木ビル

設計：山路哲生建築設計事務所

施工：坪井工業

木構造体供給・建て方：シェルター

竣工：2023年5月

階数：地下1階、地上12階

構造：S造一部木造、RC造、SRC造



◆多摩産材 使用

◆木質耐火部材「COOL WOOD」使用

12階建ての複合商業ビルであり、低層が物販、中層がオフィス、高層が飲食店です。1時間耐火でつくることができる頂部4層を木造とした効率的な構造となっています。

今後のチャレンジ

W+S造8階建マンション 「(仮称)都島プロジェクト」

建設地：大阪市都島区

建築主：オリオン建設

設計：山代悟

+ビルディングランドスケープ

施工：オリオン建設・新宅

工務店 特定建設工事JV



【木材利用促進月間等での取組】

- ・U-35展ギャラリーイベント「木造都市を目指して」
- ・「シェルターインクルーシブプレイス コパル」見学(随時)

課題・連携協力の可能性

- ・(一社)日本木造耐火建築協会を通じた木造耐火技術の普及(オンラインマニュアル講習会など)
- ・他企業との連携による木造技術開発



関連情報

【HP】<https://shelter.inc/>

【Facebook】[@shelter.fb](https://www.facebook.com/shelter.fb)

【Instagram】[@shelter.ig](https://www.instagram.com/shelter.ig)



ウッド・チェンジ・アクション

①これまでの活動で保有した3D設計技術を活用して民間の木造店舗2件の設計監理を実施した。



②木造施設の建物診断を実施し、修繕計画を策定した。



今後のチャレンジ

劣化状況の判定を行う建物診断を標準化し、長期修繕計画の策定を具体的に進めていく。

施設の包括管理業務に携わる中で、木造施設の点検から、木造新築・木質化の相談に、これまでの設計実績を活かし、メンテナンスを加味した仕様を提案していく。

【木材利用促進月間等での取組】
関連イベント情報の社内展開及び補助・助成の情報を顧客へ展開する。

課題・連携協力の可能性

長寿命化するための劣化状況の判定を標準化、部位ごとの修繕仕様の標準化をすることが課題。

関連情報

株式会社JMホームページ：<https://www.matabee.com/>



ウッド・チェンジ・アクション

◆中大規模木造建築ブランド『with TREE』 熊谷組との共同企業体で耐火木質ビルを建設



<KAGAプロジェクト>

所在地：札幌市

構造：鉄骨造

階数：地下1階、地上10階

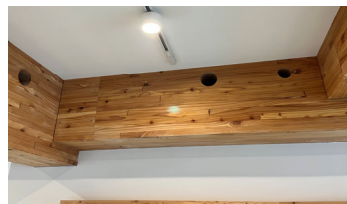
延床面積：1102.42m²

竣工：2023年6月

設計：(株)アトリエオンドー級建築士事務所
(株)桜設計集団構造設計室

施工：熊谷組・住友林業共同企業体

↓木質ハイブリッド集成材有孔梁を採用



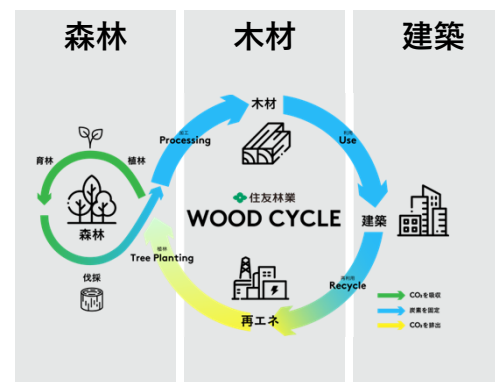
◆建築物のエンボディドカーボンを算定するソフトウェア『One Click LCA』の日本語版をリリース
ソフトウェアの販売に加えて算定受託事業も開始

今後のチャレンジ

Mission TREEING 2030

～地球を、快適な住まいとして受け継いでいくために～

長期ビジョン『Mission TREEING 2030』
森林 木材 建築 の3つの分野で『ウッドサイクル』を回し脱炭素社会の実現を目指す



①循環型森林ビジネスの加速

→森林ファンドの組成
→森林保有・管理面積の拡大

②脱炭素設計のスタンダード化

→One Click LCAを活用し、
CO₂排出量削減をサポート
→ZEB, ZEH, LCCM住宅の推進
→建築物の木造化・木質化

課題・連携協力の可能性

『One Click LCA』の販売・算定受託事業と
併せ、建材の環境認証ラベル『EPD』の取得
推進事業も進めています



関連情報

Mission TREEING 2030
with TREE
One Click LCA

<https://sfc.jp/information/vision/>
<https://withtree.jp/>
<https://sfc.jp/treecycle/value/oneclicklca.html>



ウッド・チェンジ・アクション

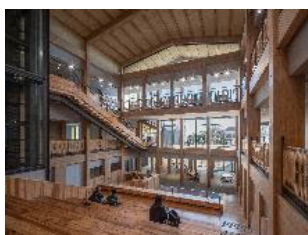
竹中2023アクション①

続々と木造・木質建築プロジェクトが実現しています

水戸市民会館



立命館アジア太平洋大学



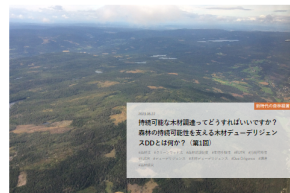
エア・ウォーターの森



竹中2023アクション②

キノマチウェブの“大型”連載企画
持続可能な木材調達ってどうすればいいですか？

キノマチウェブ



最前線で活躍する10余名の執筆陣が
“木材デューデリジェンス”を解説し、木材
調達のレベルアップを図ります。



第1回 筑波大学 立花先生からスタート！

今後のチャレンジ

中大規模建築での木材利用で森林グランドサイ
クル®の維持・拡大を目指します。



今年の木材利用促進月間！



2023年10月25日（水）
12:00-17:00（予定）

課題・連携協力の可能性

立命館アジア太平洋大学教学新棟
で部分的な木造化で森林認証制度
を取得しました。持続可能性に対し
て高い説明責任を果たしていきます。



関連情報

キノマチ
プロジェクト

キノマチウェブ : <https://kinomachi.jp/>
Facebook : <https://www.facebook.com/kinomachi.jp>
YouTube : <https://www.youtube.com/@kinomachiproject>





ウッド・チェンジ・アクション

①施工実績



用途：店舗
構造：木造
竣工：2023

2023年アクション



SGEC認証取得



用途：事務所
構造：鉄骨造+木造
竣工：2023

管理主体：野村不動産(株)
プロジェクトメンバー：東急建設(株)・住友林業(株)

②木材利用普及活動



←非住宅木造建築フェア2023
2023年5月25、26日
東京ビッグサイトにて開催

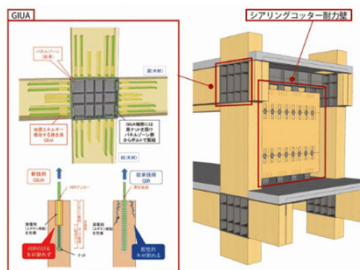


モクタス n°5
2023年5月に発行

③技術開発 P&UA構法

産学連携によるP&UA構法開発グループ※1に参加し、
2022年10月14日に10階建てモデルプラン個別プラン
評価を取得

※1)技術開発者：(株)浦ハウジング&プランニング、(株)織本構造設計、東急建設(株)、戸田建設(株)、
東し建設(株)、西松建設(株)、(株)長谷工コーポレーション、三井住友建設(株)
共同研究者：京都大学 五十田教授、近畿大学 松本准教授、
広島県立総合技術研究所林業技術センター
協力者：アルファ工業(株)、内田技建、(株)ウッドワン、エイコー(株)、(株)河本組、桜設計集団、
(株)中東、藤田K林産技術士事務所、銘建工業(株) (以上、五十音順)



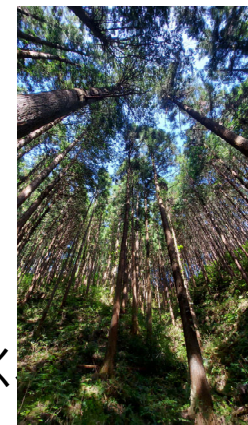
今後のチャレンジ

豊かな森林を未来へ

持続可能な森林サイクル構築の為、
森林経営計画の検討

森林機能を高め、価値向上へ

山元の持続可能な経営を支援すべく
新たな機能・価値提供の検討



「モクタス」による木材利用普及活動の継続

「モクタス」誌による情報の発信
展示会等への出展による普及活動

課題・連携協力の可能性

- ・木造建築のコスト低減
- ・効率的なサプライチェーンの構築による連携

関連情報

モクタス（木造・木質建築）ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/moctas/>
東急建設(株)ホームページ <https://www.tokyu-cnst.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

本社ビルの木質化リノベーションにより内装木質化を推進

◆「杉」の固定概念を打破し、新たな可能性を訴求

Gywood®のフローリングと家具



受付の壁面装飾



既存の机をウッドチェンジ

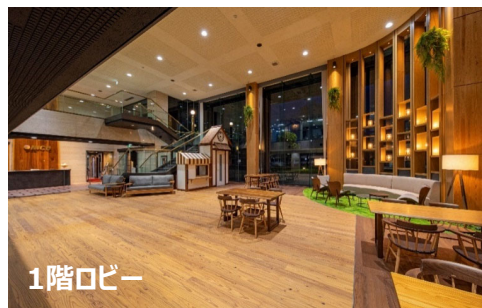


従来であれば土足の床や家具に使うことができなかった杉が、表層圧密技術「Gywood®」により、フローリングや壁板、会議用机、家具など、様々な形で活用されている

◆エイジングも楽しめる「生きたショールーム」として機能

竣工後約1年半の木材の経年変化を確認できるため、形状安定性や耐久性を証明する実大材サンプルとして説得力を持つ

⇒ 取引先様や来訪者へのご提案により、国産材の需要創造につながる



1階ロビー

今後のチャレンジ

本社ビル外壁に「凸凹Gywood®」等を施工、外装の木質化も提案

- ◆杉の屋外での利用を新たにご提案
- ◆維持管理・メンテナンスも含め、既存ビルの木質化施工事例として活用していく



完成イメージ

【木材利用促進月間等での取組】

「木と暮らしの博覧会」「木フェス」の開催

課題・連携協力の可能性

全国各地の地域材を活用したGywood®製品の生産・普及を通して、建築材や非建築材の地産地消・地産都消を推進

関連情報

表層圧密テクノロジー「Gywood®」 (<https://gywood-muku.jp/>)

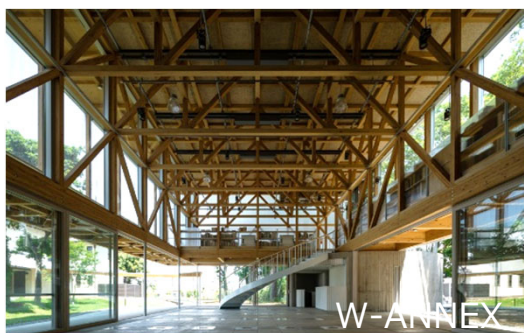
ニュースリリース (https://www.nice.co.jp/wp/wp-content/uploads/2022/05/2022_05_25-1.pdf)



前田建設工業株式会社

ウッド・チェンジ・アクション

■ 木を活かしたプロジェクト続々と実現しています



W-ANNEX



東京藝術大学国際交流棟

■ 築90年の木造住宅建築を移築復原、国有形登録文化財として一般公開も開催

港区白金台から前田建設ICI総合センター内に移築復原した「甚吉邸」



今後のチャレンジ

■ 木造建築の維持管理の知見をしっかりと実物件に取り入れ、より安心安全な木造建築実現への技術開発を推進。

■ これまでお客様に伝えてきた木で建てることのメリットである地球温暖化対策、地域経済の活性化、災害の抑制などに加え、生物多様性とのかかわりも伝えるていくことで、さらに木材利用の重要性を発信。

木で建ててみよう 前田建設×木

私たちにできること

～生物多様性/種の多様性～より



課題・連携協力の可能性

インフラグループである前田建設工業は、総合インフラサービス企業として、森林もインフラの一つととらえ、日本の持つ様々な社会課題と、木で建てたいお客様とをつなぐ役割を果たしていくために、様々な技術開発を行い、それらを取り入れながら、その地域にあった中大規模木造建築に取り組んでまいります。

関連情報



木で建ててみよう 前田建設×木

木で建ててみよう | 前田建設×木 (kidetatetemiyou.com)

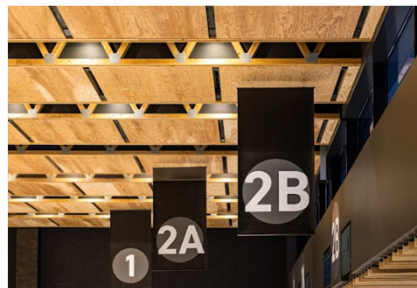
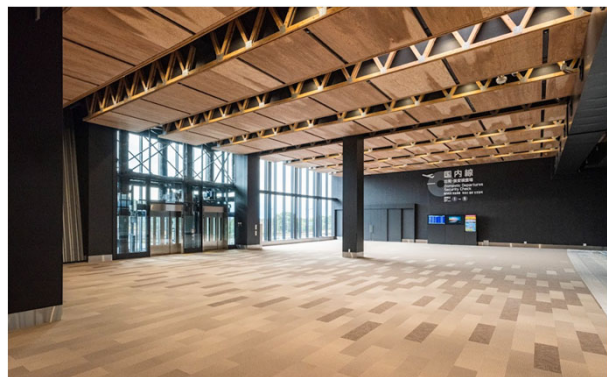


私たちは木で建てることを通じて多面的に社会とかかわり、木に寄り添いながら新しい価値を作り出していきたいと考えています。



ウッド・チェンジ・アクション

◆ 阿蘇くまもと空港（木造屋根トラス）



設計監理：株式会社日建設計
工事監理：株式会社梓設計

◆ 4階建てALL木造 カーボンゼロ賃貸マンション 「パークアクシス北千束MOCXION」



再生可能エネルギーの
一括受電
X
オール電化
X
太陽光パネル
↓
CO2排出量実質ゼロ

今後のチャレンジ

◆ 木造SDGs 戦略 「MOCX GREEN PROJECT」 (モクスグリーンプロジェクト) 7月28日スタート



◆ NLTコンテナハウス 開発プロジェクト始動



課題・連携協力の可能性

◆ 三井ホーム・三井ホームコンポーネント 経営統合
製販一体により、木材事業における川上・川中領域で積極的に関与することで、国産木材の調達力強化・利活用拡大により脱炭素社会の実現に貢献

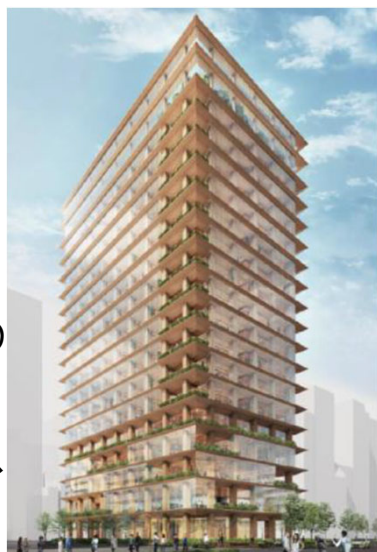
関連情報

- 2023.7.28 ニュースリリース「MOCX GREEN PROJECT」 <https://www.mitsuihome.co.jp/company/news/2023/230728.pdf?230804>
- 2023.9.5 ニュースリリース「パークアクシス北千束MOCXION」 <https://www.mitsuihome.co.jp/company/news/2023/230905.pdf?230905>



ウッド・チェンジ・アクション

- 日本橋において、国内最大級の木造賃貸オフィスビル（木造ハイブリッド建築）の計画を検討。
- 想定規模は地上18階建、高さ約80m、延床面積約28,000㎡で、現存する木造高層建築物として国内最大級。
- 2023年度着工・2026年度竣工を目指す。
- 構造材に使用する木材量は国内最大規模の1,000㎡となる見込み。
- 当社グループが北海道に保有する森林の木材を積極的に活用。建築資材の自給自足、森林資源と地域経済の持続可能な好循環の実現を目指す。
- 同規模の一般的な鉄骨造オフィスビルと比較して、建築時のCO₂排出削減効果を想定。



▲完成予想パース
(2020.9.29ニュースリリース)

今後のチャレンジ

- 今後、先導的な設計・施工技術を導入し補助事業等への提案を目指す。
- 資金調達の手段として、グリーンボンドの発行等のESGファイナンスも検討予定（本計画とは別のプロジェクトで導入実績あり）。
- これまでになかった木造高層賃貸オフィスビルの実現により、都心での街づくりへの新たな価値創造や景観を生み出す魅力あふれる場の提供を目指す。

課題・連携協力の可能性

- 竹中工務店と連携し、森林資源の循環を目指す企業として、お互いのノウハウを集結させ、本計画の検討を推進。
- 主要な構造部材には竹中工務店が開発した耐火集成材「燃エンウッド」を採用。

関連情報

三井不動産と竹中工務店、日本橋にて国内最大・最高層の木造賃貸オフィスビル計画検討に着手
～三井不動産グループが保有する森林の木材を使用し持続可能な社会の実現に貢献～

https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/news/2020/0929_02/

(2020.9.29ニュースリリース)



ウッド・チェンジ・アクション

地方ビルダー・工務店を中心にCLT活用ネットワークを構築し、CLT活用建築の推進・ノウハウの共有を図る。

ネットワーク事例（一部）

医院(兵庫県:R5年2月) 住宅(青森県:R4年5月)



店舗(埼玉県:R4年4月) 事務所(兵庫県:R3年11月)

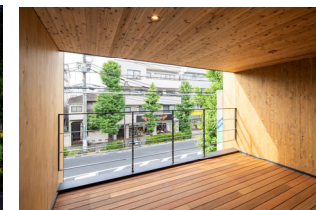


今後のチャレンジ

CAD/CAM連携による製造過程の短縮化・省力化推進・CLT流通の多角化など、更なるCLTの普及を図ってまいります。

過去実施案件の検証による更なる設計・施工のマニュアル化

➡CLT利用の多様性を求め、建築概要・目的に適した活用のマニュアル化・規格化を推進。



課題・連携協力の可能性

全国の建築相談への対応力を高める為に、様々な都府県での加工についてCAD/CAM連携等の対応を進め、コスト減を図ってまいります。

関連情報

【ホームページ】<https://nc-labo.jp/>

【Facebook】<https://www.facebook.com/ncIFAN/>

【X】https://twitter.com/Nippon_CLT_labo



ウッド・チェンジ・アクション



土木工作物への木材利用

- 建設地：岩手県葛巻町
- 用途：橋梁の上屋

全国的に見ても事例が少ない土木工作物への木材利用。林業に力を入れた町としての先導的な例。



今後のチャレンジ

- ・「脱炭素社会」の実現に向けて、公共建築における積極的な木造建築の提案を推進。
- ・地元大工での施工が可能な構造形式や部材にて構成することにより、地域経済への貢献となる建築計画。
- ・地球環境への負荷低減、森林資源の保全、林業や木材産業の活性化のための木材利用の推進。

課題・連携協力の可能性

地域産材を活用することで木材の伐採から加工、運搬などのサプライチェーンが強まり、地元林業の活性化に貢献

関連情報

SDGs目標達成に向けた久慈設計グループの取り組み：<https://kujisekkei.com/sdgs/>



ウッド・チェンジ・アクション

木質化建築における省エネ省CO2の取り組み

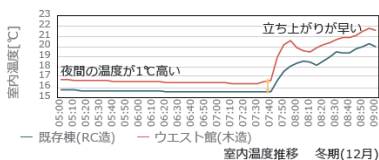
木質化建築の設計において、木材利用による省エネルギーや省CO2効果に配慮した取り組みを行っている。また、既存の木質化建築に対して、木材利用が室内環境に及ぼす影響等を測定し、データ化を積極的に行っている。

「つな木」のレンタル、地域材利用品の販売開始

木質ユニット「つな木」シリーズのレンタル・リースや地域材利用品の販売を開始。

環境教育の実施

環境教育として、小中高校生に対して日本の森林の状況の授業やワークショップ等の木育を実施。



RC造と木造の室内温度推移 どこでもつな木地域材仕様の販売



環境教育の実施

今後のチャレンジ

- ・ 森林資源の循環、国土の保全を目的とした
都市・建築の木質化の研究および実践
- ・ 中大規模における**木造・木質化建築の設計**
- ・ **木造・木質化のコンサルティング**
- ・ 川上・川中・川下をつなぐ**ウッドコーディネーション**
- ・ 木質ユニット「つな木」の普及
- ・ **木育ワークショップ**の開催

課題・連携協力の可能性

- ・ 川上・川中・川下のサプライチェーンとの連携協力
- ・ 木質化建築のCO2算定における原単位の標準化

関連情報

Nikken Wood Lab : <https://www.nikken.co.jp/ja/insights/tsunagi.html>
つな木 : <https://tsunagi-wood.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

■ 木材の利用促進のための部材開発



カフェ板 厚30mm×200mm×2000mm
スギのリフォーム・リノベーション用無垢板
床材,パーティション,DIYなどに利用
年間販売量 約11,000m³



ムクボード 厚24mm×910mm×1820mm
スギまたはヒノキの無垢巾はぎパネル
合板の代替になり床材,内装材などに利用
年間販売量 約6,000m³



ハイブリッドビーム
内層にスギ、外層にベイマツを組み合わせた
異樹種構造用集成材
年間販売量 約10万m³
(スギ原木使用量 約20万m³)

■ 木材供給

乾燥材,集成材,プレカット部材など年間約170万m³販売

今後のチャレンジ

■ 木造化モデルの検討・作成に協力

木造化モデルに使用される構造部材の仕様決定に協力し、国産材の利用拡大が図れるよう、樹種やサイズなどの選択に自由度のある仕様にしたい。

■ 中高層木造ビルへの活用

中高層木造ビルに使用できる部材などを開発し、供給していきたい。

課題・連携協力の可能性

■ 課題

発注者の部材に対する要望を明らかにする。

■ 連携協力の可能性

発注者やハウスメーカー、工務店と協力し、要望に応えることのできる部材の提案または部材開発を行う。 — 現在検討中 —

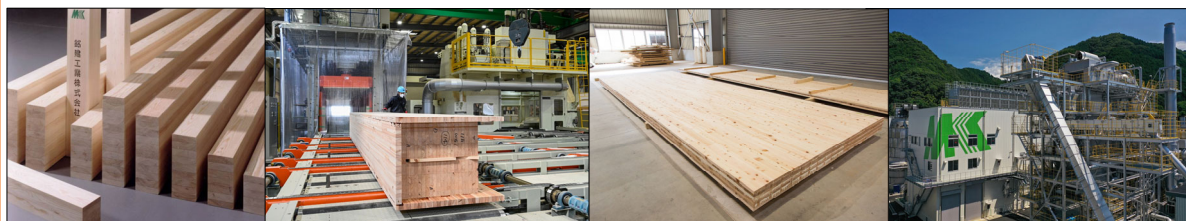
関連情報

中国木材株式会社 <http://www.chugokumokuzai.co.jp/>



ウッド・チェンジ・アクション

これまでも木材利用をより広い範囲に広げるため、集成材やCLTの製造・加工、中・大木造建築の設計から施工まで手掛けてきた。木造ビルなど中・大規模建築で利用されるCLTの普及と超大型集成材の製造設備導入で、国産材利用と木造建築を推進する。



住宅用集成材
トップクラスのメーカー

超大型集成材設備
木造ビル等で使われる
巨大な木の柱を製造可能

CLTの製造・加工
国産材を活用し、
木造建築を推進

木質バイオマス発電設備
工場から出た木くずで発電

自社製品である集成材、CLTが使われた事務所兼ショールームが2020年に竣工。バイオマスも含めた木材利用を知ってもらう拠点に。



本社事務所（外観）
2020年竣工

本社事務所（内観）
集成材とCLTの事務所

本社事務所
小学生見学の様子

今後のチャレンジ

- ・非住宅用集成材とCLTの年間製造量アップ
- ・岡山SDGs広域体感ツアー参画

【木材利用促進月間等での取組】
・「ウッドワンダーランド2023」
（「日本木工機械展」併催）への出展

課題・連携協力の可能性

CLTについて、設計者を中心により多くの人に知ってもらうための取り組み、使いやすい仕組み作りを推進する

ゼネコンや住宅会社との共同開発を積極的に進める

関連情報

銘建工業webサイト webカタログ (<https://www.meikenkogyo.com/catalog/>)
銘建工業オフィスツアー動画 (<https://www.youtube.com/watch?v=YIRaouT6j-4>)



ウッド・チェンジ・アクション

CLT（直交集成板）等を用いた建築の普及に向けて

- ①CLTの製造基準・性能基準に関するデータを整備
→従来より短く効率的なマイクロフィンガージョイント技術を開発。
9層9プライ構成の長期挙動・非等厚構成の強度性能の解明に着手。
JAS、CLTパネル工法の告示の改正に貢献。
- ②CLTの製造コスト・施工コスト削減のための技術を開発
→製品寸法の標準化、接着工程等の最適化、施工方法・耐火部材等の開発、LCA評価による環境影響優位性を実証。
- ③大断面集成材の低コスト化技術の開発
→原木伐出技術、一般流通材のラミナ利用、乾燥法・接着剤の変更等により生産コスト削減。



CLT製造装置を開発し
効率的製造方法を検討



CLT建築の施工コストを
建物で実証

今後のチャレンジ

用途に応じた木材製品の安定供給に向けて

大径材の加工・流通システムの開発、国産早生樹種等の材質・加工特性の解明と利活用技術の開発

非住宅・中高層建築物等への利用拡大に向けて

CLTの利活用技術や新たな木質材料の開発、木質材料・木質構造の性能維持管理技術・耐久性・安全性の高度化、木材ならではの快適性・健康機能・環境優位性の創出

【木材利用促進月間等での取組】

・公開講演会「持続可能な豊かな森を築く」を開催
(10月11日（水）13時より 一橋講堂)

課題・連携協力の可能性

- ・新規木質材料の製造技術の小規模実証
- ・新規木質材料およびそれらを用いた木質構造の実大性能の評価
- ・木質構造・木質空間の良さの科学的解明

関連情報

研究成果選集①<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/seikasenshu/2022/documents/p32-33.pdf>
②<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/seikasenshu/2020/documents/p30-31.pdf>
③<https://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/seikasenshu/2021/documents/p30-31.pdf>



ウッド・チェンジ協議会の取組に関する資料は
林野庁ホームページにて御覧いただけます。
是非とも、御覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/kidukai/wckyougikai.html>

